

「次期あいち科学技術・知的財産アクションプラン（仮称）」（素案）に対する御意見及び県の考え方

| 項目 | 御意見の概要 | 県の考え方 |
|---------|--|---|
| 1 総論 | <p>・「あいちビジョン 2030」における「めざすべき愛知の姿」の内容について、「脱炭素社会をチャンスとする愛知」脱炭素社会をチャンスと捉え、脱炭素社会を目指し、科学技術の発展や、脱炭素ビジネスにより持続可能で飛躍する地域へといった内容を5番目として入れた方が良いと思う。国の方向性にも合致した内容であると思う。</p> | <p>・ご指摘の「めざすべき愛知の姿」の内容は、2020年11月に策定した「あいちビジョン2030」の記載内容からの引用であるため追記することはできません。</p> <p>・なお、本プランでは、柱1の取組の中に、「「知の拠点あいち」を核とした新たな研究開発プロジェクトの組成」を記載しており、その研究開発の方向性の1つとして「SDGs達成に向けた脱炭素社会・安全安心社会の実現と社会的課題の解決」を掲げております。</p> |
| 2 総論 | <p>・「施策展開の方針」、「1 目指す姿」について、自動車の世界的なEV化の流れにより、これから自動車産業は一大大転換点にあり、強みである愛知の自動車産業の優位性も不透明さを増してきている。EV化の流れにより、自動車部品も従来のエンジン車と比べ部品数が減ることになる。これらにより、愛知県の自動車産業はかつてない試練を迎えている状況と、認識すべきである。このような、危機感を表す文言を入れた方がより良いと思う。</p> | <p>・御意見を踏まえ、「自動車産業の変革」についての記載を追加します。</p> |
| 3 総論 | <p>・このようなアクションプランが国や中間自治体から出ていることは、既存のかつてイノベーションを果たしたであろう産業に陰りが出ているということを憂いてのことと理解する。この地域で言えば、自動車、工作機械、航空宇宙などの「ものづくり産業」が当たるのだろう。すべて、裾野が広く、多くの雇用と税収を生み出した20世紀の成功事例であろう。</p> <p>・しかし、今後 発展が期待される新産業は、必ずしも同様の副次効果をもたらさないものも多くみられる。また、新型コロナウイルス感染は、この国、愛知県の科学技術の遅れや弱点、欠損箇所も露呈したように思う。地球温暖化が人類にもたらす最も深刻な災厄こそ、科学技術や人類の叡智を結集して克服せねばならないニーズであると、わたしは考えている。</p> <p>・今回のアクションプランでは、以下の点が欠落しているので指摘しておきたい。</p> <p>・イノベーションと、判定評価するのはどこの誰で、基準は何か。内々に決まっているのであれば、公開の上、再度見直しの作業が必要である。</p> <p>・インキュベーション育成の資金は、必ずしも100%公的資金でなくとも良いのではないか。</p> <p>・イノベーションにより、破壊・消滅する産業への手厚い手当と看取りの必要性。既存産業が、しばしば新産業の障害に成り得るため。イノベーターである中小企業が、旧産業の大企業に潰されることを防ぐ制度の創設。</p> <p>・生命科学系の研究拠点の創設</p> <p>・素材産業の研究・応用基盤の創設</p> <p>・死蔵特許の活用促進</p> <p>・創発的人財イノベーターの原石の発掘体制の整備。</p> <p>・学校内の科学部等の外部委託化と拡充ここには十分な公金と講師陣を投入</p> <p>・創発案やそれに繋がる調査研究の発表・交流の場の拡充</p> | <p>・本プランは、地球温暖化対策や新型コロナウイルスの感染拡大防止などの社会ニーズに対応したイノベーションを本県が世界に先駆けて創出していくための研究開発や体制整備、人材育成などに取り組むこととしております。</p> <p>・なお、個別の御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。</p> |

| | 項目 | 御意見の概要 | 県の考え方 |
|---|----|---|---|
| 4 | 柱1 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日世界的な問題となっている地球温暖化、大気中の二酸化炭素濃度上昇とそれに対処する脱炭素社会実現やカーボンニュートラルに関わるアプローチについて、多彩な提示があればよいと思う。 ・カーボンニュートラルのキーテクノロジーとして水素エネルギーを挙げ、水素社会形成推進に力点があるが、大気中の二酸化炭素濃度上昇の元凶といわれている石油石炭等の化石燃料の使用を停止し、それに替わるエネルギーに完全転換する策が大切と思う。太陽光や風力、水力、海洋エネルギー、原子力、核融合、バイオマス等の検討がないのが寂しい。 ・FCV の普及を挙げていますが、燃料となる水素の製造段階で用いる電力の発電に化石燃料の使用が残っては、二酸化炭素排出削減の効果は限定的であるため、カーボンニュートラル燃料といわれるバイオ燃料で走る自動車 FFV, E100, BDF 車等 の普及の方がより効率的であると思う。 ・化石燃料に頼っている航空機や船舶についてもバイオ燃料への転換が必要であり、バイオ燃料の普及が重要と考える。また、バイオ燃料が真のカーボンニュートラル燃料として、バイオ燃料を使用していくためには、輸入に頼らない地産地消システムの構築が肝要である。 ・愛知県は、政策として、バイオ燃料用作物生産農業の奨励や育成することで脱炭素社会構築実践の先駆けとなることができるのではないかと。 | <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会の実現やカーボンニュートラルに関わるアプローチについては、柱1の取組の中に、「知の拠点あいち」を核とした新たな研究開発プロジェクトの組成」を記載しており、その研究開発の方向性の1つとして「SDGs 達成に向けた脱炭素社会・安全安心社会の実現と社会的課題の解決」を掲げております。 |
| 5 | 柱2 | <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションを支える先駆的な研究開発環境の整備強化愛知県独自のスーパーコンピュータ導入を検討する。 ・愛知県内の大学や研究機関や企業、ベンチャー企業も利用できる、世界レベルのスーパーコンピュータを導入する。それにより、愛知発のイノベーション創出を加速させる。 ・大学や研究機関や企業、ベンチャー企業も、利用申請したら、申請が通りやすく幅広く利用しやすい、スーパーコンピュータによる研究開発環境を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 |
| 6 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・人体の細胞の孵化を研究してほしい ・デザイナーベイビの研究をしてほしい ・有人ロケットの開発を ・子供が産める性転換技術開発を | <ul style="list-style-type: none"> ・御意見としてお伺いしました。 |